

## 第 2 部 競技種目毎のルール

## 9 スピード

## 概説

## 9.1 形式

スピード競技会は：

A) 以下の条件の下に実施するものとする。

- 1) IFSC スピードライセンスルールで定められた仕様に沿って設計された人工構造物の使用。
- 2) IFSC によって承認された自動計時システムの使用。
- 3) 選手が IFSC 公認自動ビレイシステムによって上部から確保されていること。

例外的な状況では、ジューリ・プレジデントはその代替としてクライミング・レーンの横に配置した 2 名のビレイヤーによって地上から操作されたトップロープを使用することを要求することができる。

世界選手権等の IFSC が公認する国際大会におけるスピード競技では、全ての大会の全てのラウンドで同一仕様のクライミング・ウォール (P.13) に設定された同一のルート (P.15) が使用され、使用されるホールドも Hand (右上)、Foot (右下) の 2 種類のみ。それを取付ける位置や向きも細かく指定されています。選手の安全確保も、現在ではオートビレイ・システムの使用が原則となっています。

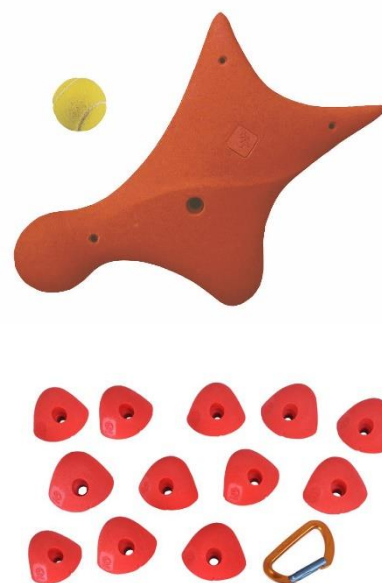
クライミング・ウォールやホールド、その他計器類も含めた規格を定めた文書が“IFSC スピードライセンスルール”です。

他の種目では、ルールの中にある程度具体的なクライミング・ウォールのスケールや安全性の確保に関する記述が見られます。スピードでも 2018 年まではそうした内容がルール中に記述されていましたが、2019 年からはそうしたことがらすべて省略された形になっています。選手の安全確保についても 9.1 A) 3)に「選手が IFSC 公認自動ビレイシステムによって上部から確保されていること」という記述と 9.4 の選手のハーネスに関する記述があるのみです。

クライミング・ウォールや使用されるデバイスの詳細は、“IFSC スピードライセンスルール”に全て委ねるという考え方でしょう。その一方で、現在では、“IFSC スピードライセンスルール”を IFSC のサイトから参照することはできないようです。

なお最後にある「2 名のビレイヤーによって地上から操作された、トップロープ」は、2018.年のルールでは「クラシック・ビレイ」として以下のように規定されていました。

- 8.3.3 a) クラシック・ビレイ：クライミングロープはディビエーション・ポイントとトップ・プロテクションポイントに、縫製によるテープスリングと規格に則ったクイック・リンク（マイロン・ラピッド）で確保支点に固



定されたステンレス製の安全環付カラビナを用いて設置されねばならない。

この場合は選手 1 名のビレイを 2 名のビレイヤーでおこないます。ハーネスとビレイデバイスを着用したビレイヤーがクライマー側のロープを引き、もう 1 名のビレイヤーが制動側のロープを引く、というかたちです。スピードの選手は 5~6 秒台で 15m のウォールを登っていくわけですから、このように 2 名体制でビレイを行う必要があります。

このクラシック・ビレイのみを用いて従来スピード競技は行われていましたが、2016 年よりオート・ビレイに関する規定が加わりました。これは、クラシック・ビレイではビレイヤーの技量によって競技に支障が出ることも多かったために、より高い競技性を持たせるための改正といえるでしょう。そして現在では原則オート・ビレイです。

その背景には、オート・ビレイ器そのものの進歩があると考えられます。つまりアテンプト中の選手に影響を与えるようなテンションがかからず、同時にスピード競技選手の登りに追隨してウエビングを巻き上げていくという、技術的には相反する要求を満たす器具が登場した、ということでしょう。ただ使用するオートビレイ・システムのメーカー、機種まで別文書で指定されており、共通規則 3.5 の用具に関する CE 規格リストにオートビレイ・システムが含まれていません。これは現状では、競技に使用しうる仕様を備えたシステムが極めて限られている、ということでしょう。

B) 以下のように構成されるものとする。

- 1) 選手が 2 人一組となって、左側が「A」、右側が「B」とされた 2 つのレーンを登攀する単一のステージで構成される予選ラウンド。
- 2) 予選ラウンドにおいて有効タイムを記録した選手数が 4 もしくはそれ以上の場合、2 から 4 の勝ち抜きステージで構成される決勝ラウンド。

C) 予選ラウンドに先立ちプラクティス・ピリオドを設けなければならない。プラクティス・ピリオドが設定される場合、このプラクティス・ピリオドの時間や方法はテクニカル・ミーティングで告知するものとする。

ラウンドの構成はリードやボルダリングとやや異なります。予選は 2 ルート同時進行なのでリードの予選と似た雰囲気ですが、決勝ラウンドはトーナメント方式で複数のステージに分かれています。9.1B) 2) で「2 から 4 の勝ち抜きステージ」とあるのは、予選を通過した人数によって決勝進出者数が変化するため、それに伴いステージの数も変わってくるからです。

9.2 IFSC は、次のカテゴリーに対して世界選手権記録およびオリンピック記録、世界記録を公認する。

- A) 男子 (カレンダーイベント開催年に 16 歳もしくはそれ以上であること)
- B) 女子 (カレンダーイベント開催年に 16 歳もしくはそれ以上であること)

9.3 記録は、採点対象のレース (すなわちプラクティス・ピリオド内のレースや放棄もしくは中止されたレースではない) および以下の条件下でのみ成立させることができる：

- A) クライミング面とホールドが：
  - 1) IFSC テクニカル・デリゲイトによって承認され IFSC スピードライセンスルールに準拠していること；かつ
  - 2) 大会主催者が、ジューリ・プレジデントに対し関連する IFSC ホモロゲーションレポートの写しを提出していること；
- B) 使用する計時システムが IFSC によって認証され、世界記録への要件を充足していること。
- C) 競技会がカレンダーイベントの一部であること。

- D) ジュリー・プレジデントが IFSC によって指名されていること。
- E) 大会主催者が現世界記録より速いタイムもしくは同一のタイムを樹立した選手に対し、当該国の国際的スポーツ活動に関する国内規則および世界アンチドーピング規程、IFSC のアンチ・ドーピングポリシーおよび手続き、罰則規定に従ってアンチドーピング検査を提供すること（該当する場合は実施も含む）。

ただし、競技会中に樹立されたいかなる記録も、当該選手がその競技会で失格または行為の結果による失格〈Disqualified for Behaviour〉となった場合は取り消される。

9.3A 9.3 に従い、新記録となるタイムが最初に記録された場合：

- A) そのタイムは（必要に応じて）大会および/または世界記録として指定され、ジュリー・プレジデントは、その競技会名、そのレースのラウンド、選手の氏名、カテゴリーおよび国籍とレースの日時を記録するものとする；
- B) 同じレースで複数の選手がそれぞれ新記録となるタイムを記録した場合；
  - 1) 当該の選手間の記録が 1/1000 単位での測定では異なる場合は、そのレースの勝者が世界記録保持するものとする；
  - 2) 当該の選手間の記録が 1/1000 単位での測定でも同じ場合は、世界記録はそれぞれの選手がともに保持するものとする；

ただし、次のいずれかの場合は：

- i) 当該選手がその競技会中またはその競技会後に失格、または行為の結果による失格〈Disqualified for Behaviour〉とされた、または WADA 規定のみに関する何らかの違反があった；
- ii) 使用した計時システムに欠陥があると競技中に判断された、

当該の記録は無効となり、ジュリー・プレジデントもその旨を記録する。

共通規則の 3.21 に規定のある世界記録の認定についての詳細です。2018 年まではこの世界記録に関する規定はルールにはありませんでしたが 2019 で加わり、2020 でさらに加筆されました。認定を厳密化するためでしょう。

## 安全性

9.4 各選手はハーネスを着用するものとする。ジュリー・プレジデントは、選手のハーネスが安全でないと合理的に確信する場合、その選手の競技開始を許可しないものとする。

「安全性」というセクションにはこれしか記述がなく、2018 年までに比べシンプルになっています。以前はリードと同じように、トップロープの選手への装着方法、ビレイヤーによるハーネスの装着状態やロープの取り付け状態の確認義務などの規定がありましたが、全て削除されています。オート・ビレイが原則となったためでしょう。

## 競技順及び定員

9.5 決勝ラウンドの定員は、次のように決定されるものとする：

予選における有効タイム保有選手数

決勝定員

4 - 7

4

8-15	8
> 15	16

スピード競技の大きな特徴の一つとして挙げられることは、決勝の定員が「予選で有効なクライミング・タイムを記録した選手の人数」で変化することです。仮に当初の参加選手数が 16 を超えていても、不正スタートなどで有効タイムを記録した選手がそれを下回った場合は、決勝ラウンドへの進出選手は 8 名（場合によっては 4 名……）になってしまいます。

「有効なクライミング・タイム」の定義は 9.13 にあります。

**9.13 成績は以下のように記録されるものとする：**

**A) 「有効タイム」は当該選手が：**

- 1) 最上部の計時パッドもしくはスイッチを叩いた；かつ
- 2) タイマーを停止させた場合、  
但し、当該レースでいずれかの選手が不正スタートを行った場合以外とする；また

**B) 「墜落 (Fall)」は、そのコースのアテンプトで当該選手が：**

- 1) タイマーを停止できなかった場合；
- 2) 墜落/滑落に先立って保持 (Controlled) または使用 (Used) した最も高位のホールド以外のホールドで墜落/滑落を止めた場合；
- 3) クライミング・ウォールの両脇もしくは上端の縁を使用した；もしくは
- 4) スタート後に、身体のいずれかの部分が地面に触れた場合。

選手が規定通りにスタートし、アテンプトを完了したときのタイムで、途中で落ちたり、不正スタートをした場合以外のタイムということです（そもそも途中で落ちたとき、あるいは不正スタートをした場合はタイムが記録されません。墜落などの場合は fall、不正スタートの場合は FS と表記されます）。墜落そのものは規定にありませんが、墜落すればタイマーを叩いて止めることはできませんので、B)1) に包含されていると考えられます。

**9.6 競技順：**

**A) 予選については、次のように決定されるものとする。**

- 1) レーン A については、無作為順とする。
- 2) レーン B については、レーン A と順序は同様とし 50% の人数——選手数が奇数の場合は切り捨てた人数——のところで前後を入れ替える。例：20 名もしくは 21 名のスターティング・リストの場合、レーン A で 11 番目にスタートする選手はレーン B の最初になる。

予選の競技順は、リードと同様にランダムで、全ての選手がクライミング・ウォールの 2 つのレーンを 1 回ずつ登りより速い方のタイムを比較して順位を決めます。9.6 A) 2) にあるように、B レーンでの競技順は A レーンの競技順の前半と後半を入れ替えたものとなります。これはリードの予選の競技順と同じです。

**B) 決勝ラウンドの各ステージについては、付録 (Annex) 2 で定められたものとし、各レースの各レーンへの割り当ても同様とする。予選ラウンドで 2 名以上の同着の選手がいた場合、決勝ラウンドの第 1 ステージでのそれらの選手の競技順は無作為に決定するものとする。**

決勝は勝ち抜き戦ですから、個々の選手の競技順ではなく対戦表となります。B) に記述のある「付録 (Annex) 2」の対戦表とは次のようなものです。

付録 (Annex) 2

レースとレーンの組合せ

16 選手

1/8 ステージ

1	A	予選 1 位
	B	予選 16 位

2	A	予選 8 位
	B	予選 9 位

3	A	予選 4 位
	B	予選 13 位

4	A	予選 5 位
	B	予選 12 位

5	A	予選 2 位
	B	予選 15 位

6	A	予選 7 位
	B	予選 10 位

7	A	予選 3 位
	B	予選 14 位

8	A	予選 6 位
	B	予選 11 位

1/4 ステージ

9	A	レース 1 勝者
	B	レース 2 勝者

10	A	レース 3 勝者
	B	レース 4 勝者

11	A	レース 5 勝者
	B	レース 6 勝者

12	A	レース 7 勝者
	B	レース 8 勝者

1/2 ステージ

13	A	レース 9 勝者
	B	レース 10 勝者

14	A	レース 11 勝者
	B	レース 12 勝者

ファイナル・ステージ

15	A	レース 13 敗者
	B	レース 14 敗者

16	A	レース 13 勝者
	B	レース 14 勝者

8 選手

1/4 ステージ

1	A	予選 1 位
	B	予選 8 位

2	A	予選 4 位
	B	予選 5 位

3	A	予選 2 位
	B	予選 7 位

4	A	予選 3 位
	B	予選 6 位

1/2 ステージ

5	A	レース 1 勝者
	B	レース 2 勝者

6	A	レース 3 勝者
	B	レース 4 勝者

ファイナル・ステージ

7	A	レース 5 敗者
	B	レース 6 敗者

8	A	レース 5 勝者
	B	レース 6 勝者

4 選手

1/2 ステージ

1	A	予選 1 位
	B	予選 4 位

2	A	予選 2 位
	B	予選 3 位

ファイナル・ステージ

3	A	レース 1 敗者
	B	レース 2 敗者

4	A	レース 1 勝者
	B	レース 2 勝者

決勝の最初のステージの対戦組合せは、ステージ数に関わらず予選通過者の内の 1 位 vs. 最下位、2 位 vs. 下から 2 番目……という風に強い選手と弱い選手を対戦させる形になります。その上で上記の表にある競技順（レースの順番）で対戦

が行われます。基本的な考え方としては、予選で上位になった選手を有利にするということです。レースの順番は様々なレベルのレースを取り混ぜて観客が飽きないような工夫をしています。

## 競技会の進行

9.6A 各ルートはプラクティス・ピリオド終了後、および各カテゴリーの予選ラウンド終了後にクリーニングを行うものとする。

リードと同じように、一定のタイミングでクリーニングを行います。この規定は2020年に追加されました。

9.7 プラクティス・ピリオドが設定されている場合、選手は各ルートで1回のプラクティス・ランを行う権利が与えられなければならない。選手は、不正スタートの場合、中止させられることはない。プラクティス・ピリオドは：

- A) 不正スタート音と計時備品のデモンストレーションを含むものとする。
- B) 予選ラウンドのプレ・ランの形式を取らねばならず、予選ラウンドに参加する資格を保有する各選手は、予選ラウンドの公表された競技順でアテンプトを行わねばならない。ジュリー・プレジデントは、競技会特有の状況を考慮し、プラクティス・ピリオドの時間や形式を変更することができる。

スピード競技では、予選の前に原則プラクティス・タイムと呼ばれる試登の時間を設定します。プラクティス・タイムでは、各選手が各レーンを1回ずつ試登することができます。プラクティス・タイムの目的は、ルートの最終確認という意味合いもありますが、それよりもむしろ選手にとっては計時システムの「クセ」に慣れるための時間という位置付けです。これは、前述のように計時システムの仕様がメーカーによってかなり違うこと（スタート・パッドのサイズや厚さが異なる、スイッチ式 or タッチマット式……）が影響していると考えられます。

尚、プラクティス・タイムは必ず実施しなければならないものではありませんが、選手のためには可能な限り行った方がよいものですので、様々な条件下でもプラクティス・タイムを行うことができる権限をジュリー・プレジデントに与えています。

9.7A) の「デモンストレーション」はほとんど行われていませんが、これはプラクティス・タイムで大抵1回は不正スタートが発生するからそれを確認しろ、ということのようです。

9.8 予選ラウンドでは：

- A) 各選手は、以下の場合を除き、各レーンで1回アテンプトを行うことができる
  - 1) 不正スタートやテクニカル・インシデントの結果、再競技が要求される場合、追加のアテンプトが認められるものとする；もしくは
  - 2) 各選手がコール・ゾーンへの呼出に応じなかった場合、それらの選手が関係するレースはそれらの選手を除いて実施しなければならない。
- B) 各選手は、両方のレーンでのアテンプトを完了するまで、ジュリー・プレジデントの指示の下に競技エリアに留まるものとする。
- C) その最初にスケジューリングされたレースにおいて不正スタートを行った選手は、2番目のレースを開始する資格を失う。不正スタートが発生したすべての場合において、不正スタートを行っていない選手は、相手がない状態で再競技を行うことができ、この再競技は次にスケジューリングされているレースの前に実施するものとする。

スピード競技は基本的に 2 人 1 組で競技を行います。予選に関してはそのペアの中での勝敗は順位付けに関係がないタイムレース形式を採用しています。

9.8 B) は、アイソレーションの概念がないスピードでは選手管理が難しいことからあえて競技エリアに留まるように規定しています。

C)にある「不正スタート」=false start はいわゆるフライングを指します。この定義は 9.12 にあります。

#### 9.12 不正スタート

A) いずれかのレースで、スターターが「Ready」と声をかけた後に：

- 1) 片方の選手の反応時間が 0.100 秒未満の場合、その選手は不正スタートを行ったと記録するものとする；
- 2) 両方の選手の反応時間が 0.100 秒未満の場合：
  - a) 最も反応時間が早い選手は不正スタートを行ったと記録するものとする；かつ
  - b) 両方の選手の反応時間が同じだった場合、関連するレースは再競技するものとし、不正スタートは記録されないものとする。

B) 不正スタート発生後、計時システムによるリコール信号に加え、スターターは可能な限り速やかに「Stop」と声をかけるものとする。

C) IFSC によって承認された自動計時システムによって記録された反応時間の妥当性に関して抗議を申し立てることはできない。

予選では選手は各レーン 1 回ずつアテンプトを行うことができますが、最初にトライするレーンと 2 回目にトライするレーンのどちらでも不正スタートを行った場合はその時点で失格となり、最下位となります。注意すべき点は、2 回目にトライするレーンで不正スタートを行った場合、既にトライしたレーンで有効なタイムを得ていたとしてもその記録は取り消されるということです。

9.12 B) は、2 回目の不正スタートで失格となっていた時代に、不正スタートを起こしていない選手がそのまま登り続けると再競技の際に不利になるために定められていると考えられます。

#### 9.9 決勝ラウンドは：

A) 複数の勝ち抜きレースで構成される一連のステージで実施され、いずれかのステージにおけるレースの勝者は次のステージに進出するものとする。ステージおよびレースの数は、決勝ラウンドの定員によって決定される。

B) 決勝ラウンドのいずれかのレースにおいても、勝者は以下の通りに決定されるものとする：

- 1) 両方の選手が有効タイムを記録した場合、より早い有効タイムを記録した選手。
- 2) 片方の選手が不正スタートを行ったと決定された場合、もう片方の選手。
- 3) 両方の選手が同じ有効タイムを記録した、あるいは有効タイムを記録しなかった場合（不正スタートが発生した場合を除く）：
  - a) より高い（より良い）予選順位の選手；あるいは
  - b) 両方の選手の予選順位が同じ場合、関係するレースは再競技するものとする。

4) いずれかの選手が、コール・ゾーンでの呼出に応じなかった場合、他方の選手。

C) 1/2 ファイナル進出者全員の紹介を準決勝の第一レースの前に実施するものとする。

- D) 1/2 ファイナルのレースで敗退した選手は、3位と4位を分けるために“スモール・ファイナル”で競技を行うものとする。
- E) 1/2 ファイナル・ステージの勝者は、スモール・ファイナルの完了後、もしくは複数のカテゴリーが並行して競技を行う場合は全てのスモール・ファイナルの完了後に、1位と2位を分けるために“ビッグ・ファイナル”で競技を行うものとする。いずれかのビッグ・ファイナルで不正スタートが発生した場合、勝者は世界新記録もしくは、該当する場合は選手権新記録を記録することを目的として、一人でレースをおこなうことを選択できる。
- F) 各選手は、敗退するまでジュリー・プレジデントの指示の下に競技エリアに留まるものとする。

9.9 C) の出場選手紹介はリード、ボルダーでも規定されていますが、スピードの場合は決勝ラウンド進出者全員ではなく、1/2 ファイナルの前に行うことになっています。ちなみに、スピードの決勝ラウンドは、16人進出の場合、1/8 ファイナル、1/4 ファイナル、1/2 ファイナル、ファイナル（スモール・ファイナル=3位決定戦、ビッグ・ファイナル=1位、2位を決定する本当の決勝）の4つのステージで構成されています。また、決勝は通常男女交互に進めていきますので、選手紹介では、1/2 ファイナルの前に男女それぞれの4名、合計8名の紹介をすることになります。

決勝ラウンドで不正スタートを行った場合は、決勝ラウンド全体の最下位ではなく、不正スタートを行ったステージでの最下位になります。

なお2017年までは「不正スタートを行わなかった選手は、当該ステージでそのアテンプトを完了しなければならない」という規定がありましたが、1人で登らせるのはショーとしては全く見栄えがしませんし、その適用が統一されなかったため、2018年より再レースはビッグ・ファイナルのみとなりました。

決勝ラウンドでは原則として同着の選手は再競技を行いますが、両方の選手が不正スタートを行った場合は反応時間の長い選手を勝者とします（9.12 A) 2) a)）。計時システムによっては反応時間が表示されないものもあるので注意が必要です。

## クライミング中の規定

- 9.10 全てのレースは、指名されたスターターによる明瞭に聞き取れる合図音によって開始されるものとし、スターターは IFSC オフィシャルでないものとする。スターターは、各選手からは見えない位置にいるものとする。合図音の音源は、全ての選手から等距離で、可能な限り近くに設置しなければならない。

スターターは特に規定はありませんが、通常は国内審判資格保有者が行います。IFSC 競技役員、すなわち IFSC ジャッジやジュリー・プレジデントはスターターを兼任することはできません。スターターは選手から見えない位置にいないとありますが、これは選手がスタート・ポジションに入ったときに見えない位置という意味で、どの時点でも見えない位置にいないとあってはなりません。スターターの位置は、多くの場合ウォール正面中央から 5m 程度離れた両レーンと時間表示が見渡せる位置としていますが、最近では見栄えの問題からウォールの前にできる限り人や物を置かない傾向がありますので、ウォールに向かって右側に置く場合もあります。

- 9.11 各レースは共通のスタート方法を用いるものとする：

- A) ルートの取付きに呼び出されたら、各選手は：

- 1) 呼び出されてから 10 秒以内に、スタート・パッドを自分のスタート・ポジションに適した位置



に置かなければならない。

- 2) ビレイヤーに身体を向け、ビレイヤーは以下の事項を確認するものとする。
  - a) 選手のハーネスが適切に着用されていること；かつ
  - b) 選手のハーネスが安全に自動ビレイシステムまたはトップロープに接続されていること。
- 3) スターターの指示に従い、壁の前方 2m 以内の待機位置に、壁に背を向けて入ること。

選手はコール・ゾーンから送り出された後、自分がトライするレーンの前に到着したらまずスターティング・パッドの位置を調節します。このときに選手はホールドに触ったり足を掛けることができます。10 秒以内に調節したら、各レーンの前方 2m 以内にテープで囲われた待機位置にウォールに背を向けて立ちます。そこでビレイヤーにロープもしくはオートビレイ・システムを装着してもらいます。規定では ii.→iii.の順になっていますが、現状では同時に行われているイメージです。「スターターの指示」とありますが、何か声をかけて指示することも基本的にないので、選手にはこの一連の流れは必ず教育した方がいいでしょう。

- B) 「At your marks」の指示で、各選手は遅れを取ることなく、片足をスターティング・パッドに置き、両手と片足を任意のスターティング・ホールドに置くこと。
- C) 全ての選手がスターティング・ポジションで静止したら、スターターは「Ready」と声をかけ、それに続いてただちに計時システムを始動するものとする。
- D) いかなる理由であれ、「At your marks」の指示の後、そしてスターターが「Ready」と声をかける前に：
  - 1) スターターがレースを開始できないと判断した場合；もしくは
  - 2) 選手が、片手を挙げてスタートする準備ができていない旨を伝えた場合

スターターは全選手に対し待機位置に戻るよう指示するものとする。

- E) 選手が(A)もしくは(B)に従わない、もしくは他の選手を妨害する行動をとった場合、スターターは全選手に対し待機位置に戻るよう指示するものとする。ジュリー・プレジデントは、問題のあった選手に警告（イエローカード）を与えることができる。

いわゆる「位置について」は「At your marks」というコールになります。陸上競技では、「On your marks」ですが、スポーツライミングでは「At your marks (アト・ユア・マークス)」となります。このコールの後、選手は 4 秒以内に両手と片足を任意のスターティング・ホールドに、片足をスターティング・パッドに載せなければなりません。「任意のスターティング・ホールド」ですので、片足をスターティング・パッドに置いた状態から届く範囲のホールドであればどれを使っても構いません。

「用意」にあたるコールが「Ready (レディ)」です。2011 年までは、「Ready」の後に「Attention!」というコールをしてから計時システムを始動していました。また、2017 年にはそれまでスタート音が 1 回のピープ音だったものを 3 回のピープ音に変更されました。1 回のピープ音の場合、スターターが「Ready」のコールの後システムのスタートスイッチを押した瞬間にスタート音が鳴る仕組みになっており、この「Ready」からスタート音までは 1 秒から 2 秒空けると定められていましたが、どうしてもこの「間」が大会中に一定に保たれないケースが発生します。これによって不正スタートが起きることも想定されるため、2017 年からは不正スタートの一発失格と抱き合わせで、大会中はもちろんのことすべての国際大会でスタート音のタイミングが統一されることになりました。

D) 1) は、例えば選手がスターティング・ポジションに入ってから計時システムのトラブルが起きた場合に、選手の負

担にならないよう待機位置に戻るようスターターが判断してよいという規定です。

以前は、片方のレーンでは選手がスターティング・ポジションに入っているにもかかわらず、もう片方のレーンの選手はもたもたしているという状況がよくみられたのですが（相手のペースを乱す作戦でもあったようですが）、それに対しスムーズに競技を進行させるための規定が E) になります。

9.14 不正スタートの発生後を除き、選手は各ルートでのアテンプトの間に最低 5 分の休憩時間が与えられる。

予選ラウンドでは最初のレーンでのアテンプト終了から次のレーンでのアテンプト開始までが 5 分未満となることは、よほど参加者が少ない限りあり得ませんが、意識しておくべき点でしょう。決勝ラウンドでは、関係するとすれば 1/4 ファイナル以降です。

## 判定及び評価

9.15 各選手のクライミング・タイムは、スタート信号から選手のアテンプトの完了までの期間と定義するものとする。計時システムは：

- A) 各選手のクライミング・タイムを別々に記録し表示するものとする。
- B) 最低でも 1/1000 秒の精度でのタイムの計測が可能であるものとする：
  - 1) タイムは順位付けのために 1/1000 秒単位まで記録するものとする；
  - 2) タイブレイクを示すために必要な場合を除き、公式成績には 1/100 秒単位に切り捨てて表示するものとする。

リードの場合、選手のクライミング・タイムは身体のすべてが地面から離れたときから計測を開始しますが、スピードの場合はスタート音から計り始めます。2017 年までは公式な国際大会でも手動計時が許容されていましたが、2018 年から自動計時のみになりました。

IFSC が公認する大会で用いる計時システムは、IFSC から認証を受けたものでなくてはなりません。全世界で 8 社がライセンスを保有しています。しかしながら、ライセンスの発行基準が曖昧で、単にこの 9.15 を満たしていればいいようです。そのため、現状では計器の仕様がメーカーによってかなり異なります。

9.16 適用せず

## 順位付け

9.17 予選順位

- A) そのスケジューリングされた両レースで競技を開始できなかった、あるいは競技を開始するのに適格性を欠くとされた各選手は、当該ラウンドではランク外とし、その成績は欠場 (Did Not Start / DNS) もしくはその他の適切な IRM で記録される。
- B) 最初のあるいは 2 回目のそのスケジューリングされたレースで不正スタートをした各選手は、そのラウンドで等しく最下位とする。
- C) 上記 (A) および (B) の適用後に、それ以外で一つもしくは両方のスケジューリングされたレースで有効タイムを記録できなかった各選手は、不正スタートの選手の上位の同着とする。
- D) 上記 (A)、(B) および (C) の適用後に、そのスケジューリングされたレースで少なくとも一つの有

効タイムを記録した各選手は、その有する上位（もしくは唯一）の 1/1000 秒でまで計測された有効タイムの昇順で順位付けされる。2 人の選手が同じ上位（もしくは唯一）の有効タイムを有する場合は、その間の順位は以下のように決定する：

- 1) 両選手が 2 番目の有効タイムを有する場合は、それらを比較する；
  - 2) 1 人の選手だけが 2 番目の有効タイムを有する場合は、その選手を 2 番目の有効タイムを持たない選手の上位とする；
  - 3) 両選手とも 2 番目の有効タイムを持たない場合は、これら 2 名の選手は同着とする。
- E) 上に定める順位決定方法の適用後、同着があつて決勝ラウンドへの定員を超える場合、同着の選手は関連する同着が解消されるまでレーン A で再競技を行うものとする。これらのアテンプトで記録されたタイムは、どの選手が決勝へ進出するかの決定のみに使用され、他の目的には使用されないものとする。

予選の成績は 2 回のトライのうち、より速いタイムで決定されます。不正スタートさえしなければタイムは残りますので、極端な話ですが最初のレースでかなりいいタイムが出たら、2 回目のレースはフォールしても（手を抜いても？）良いわけです。

ただし、1 回目でも 2 回目でも、不正スタートをしたらその場で最下位となります。

他種目では次ラウンド定員を同着で超過する場合は全員が進出できましたが、スピードの決勝ラウンド勝ち抜きのため人数が 2 のべき乗でなければなりません（4, 8, 16 のいずれか）。そこで B) にあるように同着の選手は再競技で決着をつけます。対戦にしないのは、レーンの違いによる差を考慮したか、3 人以上の同着が出た場合を考慮したかのいずれか（両方？）でしょう。

#### 9.18 決勝順位

- A) その最初にスケジューリングされたレースを開始できなかった、あるいは競技を開始するのに適格性を欠くとされたあらゆる選手は、当該ラウンドではランク外とし、その成績は欠場（Did Not Start / DNS）もしくはその他の適切な IRM で記録される。
- B) 選手は、競技を行った最後のステージでの順序に基づいて決勝ラウンドで順位づけられるものとし、各ステージ内では以下のように順位付けられる：
  - 1) そのステージでの勝者：かつ
  - 2) そのステージの対戦の敗者は、そのステージの時間記録を互いに比較して順位づけられ（そのステージの有効な時間記録を持つ選手は、持たない選手の上位に順位づけられる）、さらに同着をわける必要のある限り、先立つステージのそしてまた予選ラウンドの時間記録を使用する。

スモール・ファイナル（3 位決定戦）、ビッグ・ファイナル（決勝）については、無論 1～4 位が決まりますが、それ以前のステージでの敗者は、そのステージの敗者の中でタイムを基に順位付けを行います。敗者の中でタイムが同じ選手がいた場合や、タイムが残らない選手が複数名出た場合（fall, FS など）は、その前のステージもしくは予選ラウンドまでカウントバックします。

#### 9.19 最終順位

最終順位は、以下の基準で決定される：

- A) 決勝順位を保有する選手は、その順序；かつ

B) 決勝順位を保有しない選手は、予選順位の順序とし、

決勝ラウンドがいずれかのステージで中止された場合は、競技会は終了したものとみなされ、最後に完了したステージ後の総合順位が競技会の総合順位となり、最後に完了したステージ後に最終順位が算出され、最後に完了したステージのレースの勝者間の順位は、それぞれのタイムに基づいて決定される（同着をわけると必要のある限り、先立つステージのそしてまた予選ラウンドの時間記録を使用する）。

後段は決勝が途中のステージで中止になった場合の順位のつけ方です。基本的には最後におこなわれたステージの順位になります。これは 9.18B) にしたがって決定されます。

## テクニカル・インシデントと抗議

9.20 テクニカル・インシデント及び抗議の判断には、公式ビデオ記録のみ、かつジュリー・プレジデントの裁量によって IFSC 放送ビデオ記録を使用するものとする。公式ビデオ記録は最低でも以下を記録しなければならない：

- A) 両方のレーンのスタート・ポジション；
- B) 両方のレーンの最上部の計時パッドもしくはスイッチ；かつ
- C) 各レースの選手の各ペアのアテンプト

スピードの場合のビデオ記録もボルダーの場合と同様、選手の動きを追うのではなくポジションは固定して撮りっぱなしになります。

スピード競技のビデオは、常に一つの画面に両レーンが入るように撮影します。1台でスターティング・ポジションを含んだウォールの下から3分の2程度、もう1台でゴール・パッド/スイッチ含んだウォール上から3分の2程度を撮影すると、ちょうどウォールの中央部分は2台でオーバーラップするようになります。決してリード競技のビデオのように選手を追いかけるように撮影しないでください。できれば、いずれかのビデオカメラでタイム表示ディスプレイも映るようにしておくと、タイムの記録忘れが発生した際に確認できるので良いでしょう。

9.20 選手もしくはチーム・オフィシャルが、テクニカル・インシデントが発生したとみなした場合、次のレースの開始までにジュリー・プレジデントにその旨を申し出なければならない。

9.21 計時システムの性能に関連するテクニカル・インシデントを主張することは、明白な誤作動もしくは系統誤差に関する場合にのみ可能である。

9.22 ジュリー・プレジデントは、以下に従ってテクニカル・インシデントの発生の有無を決定するものとする：

- A) 決定のために、ジュリー・プレジデントは必ず：
  - 1) 公式ビデオ記録を確認するものとする；
  - 2) システムの動作確認を要求するものとする；
  - 3) ルートセッターに対し、関連するルートに登り、最上部のパッドあるいはスイッチを叩くよう要求するものとする。
- B) テクニカル・インシデントが：
  - 1) 解決され、単一のレースに影響したとみなされた場合、直接的にそのテクニカル・インシデントの影響を受けた選手は再競技を行うものとする；もしくは
  - 2) 解決されず、関連するステージの全選手に影響したとみなされた場合、ジュリー・プレジデント

は：

- a) 影響を受けたステージ以降を中止する；もしくは
- b) 当該ステージの結果を破棄し，再競技を命ずるものとする。

スピードはホールドの位置が固定で回り止めも確実に打たれていますので，リードやボルダリングと比較してホールドの破損——特にフットホールド——はありえますが，回転によるテクニカル・インシデントはほとんど発生しません。

その代わり，計時システムのトラブルは非常に厄介です。トラブルが修復可能であればまだしも，9.22B) 2) b)にあるように，大会そのものが途中終了という事もありうるわけです。必ず事前に動作確認をしっかりとすることが肝要です。

### 9.23 抗議

A) 以下の判定に関する抗議は次のレースのスタートまでに申し立てねばならない。

- 1) いずれかのレースの選手のアテンプト；もしくは
- 2) 決勝ラウンドのいずれかのレースの成績

次のレースは，抗議の処理が終わるまで開始しないものとする。このような抗議は，口頭で申し立てることができ，抗議供託金は要求されない。

B) 公表された成績もしくは選手の順位に関する抗議は，文書によって，かつ：

- 1) 予選ラウンドに関しては，公式成績の公表後 5 分以内に申し立てねばならない；もしくは
- 2) 決勝ラウンドに関しては，関連する成績もしくは順位の公表時に申し立てねばならない。

レースそのものに関する抗議はレース直後のみ認められると考えて良いでしょう。

B) は他種目の場合と同様の記述です。

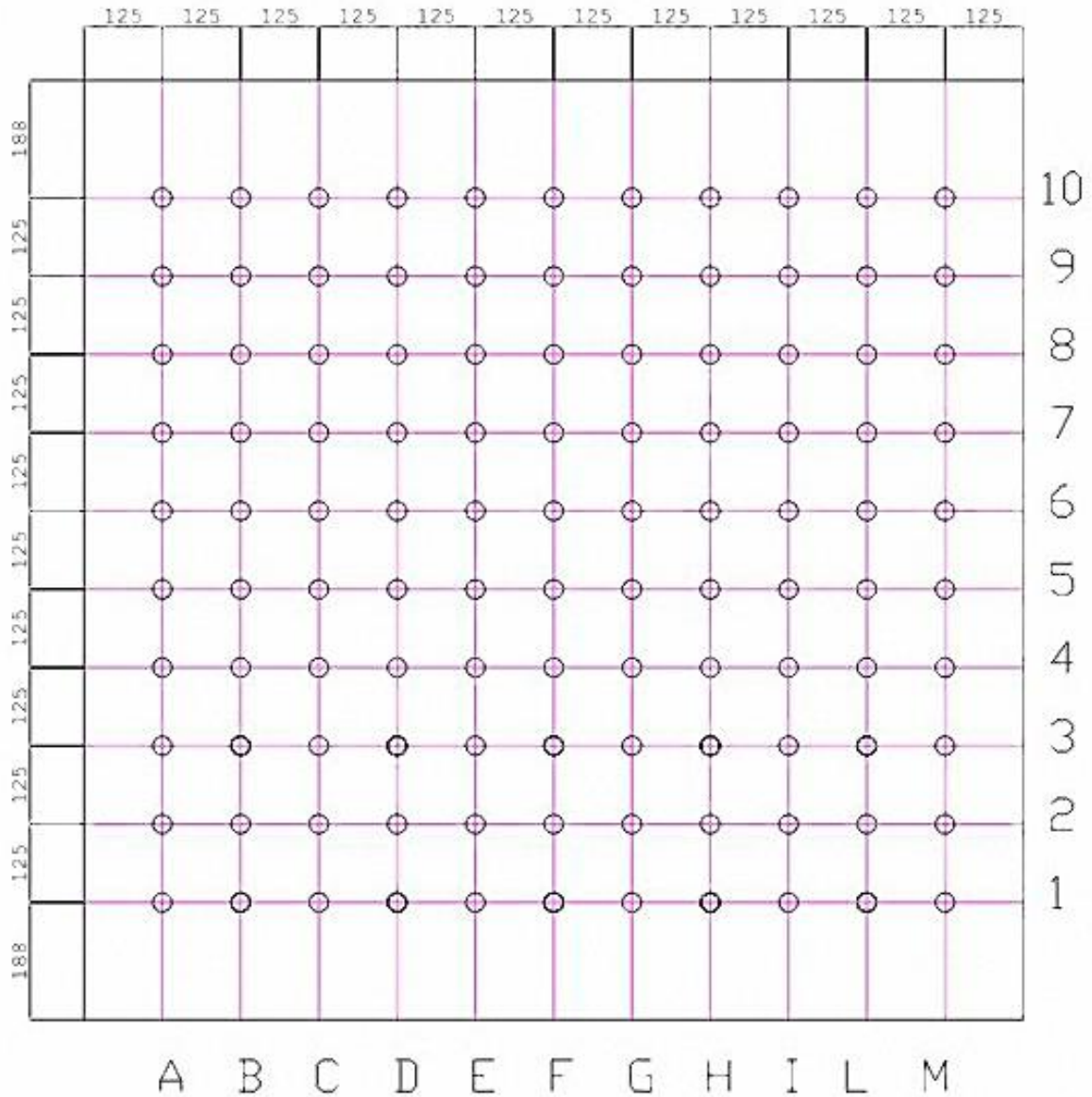
※ このスピードの規定の後に「チーム・スピード」に関する規定がありますが，「IFSC は，チーム・スピード競技会に IFSC ルール 2018 (v1.5)を適用することを認めることができる。」とあるのみです。

## 15m 競技用レーン

スピードは、特に決勝では2人の選手が対戦し、先着の方が次のステージに進んでいくという競技方式ですので、1レーンだけでは成り立ちません。ですから、「最低でも2つ」レーンが必要となるわけです。幅1.5mのパネル2枚×10段で1レーンを構成しています。



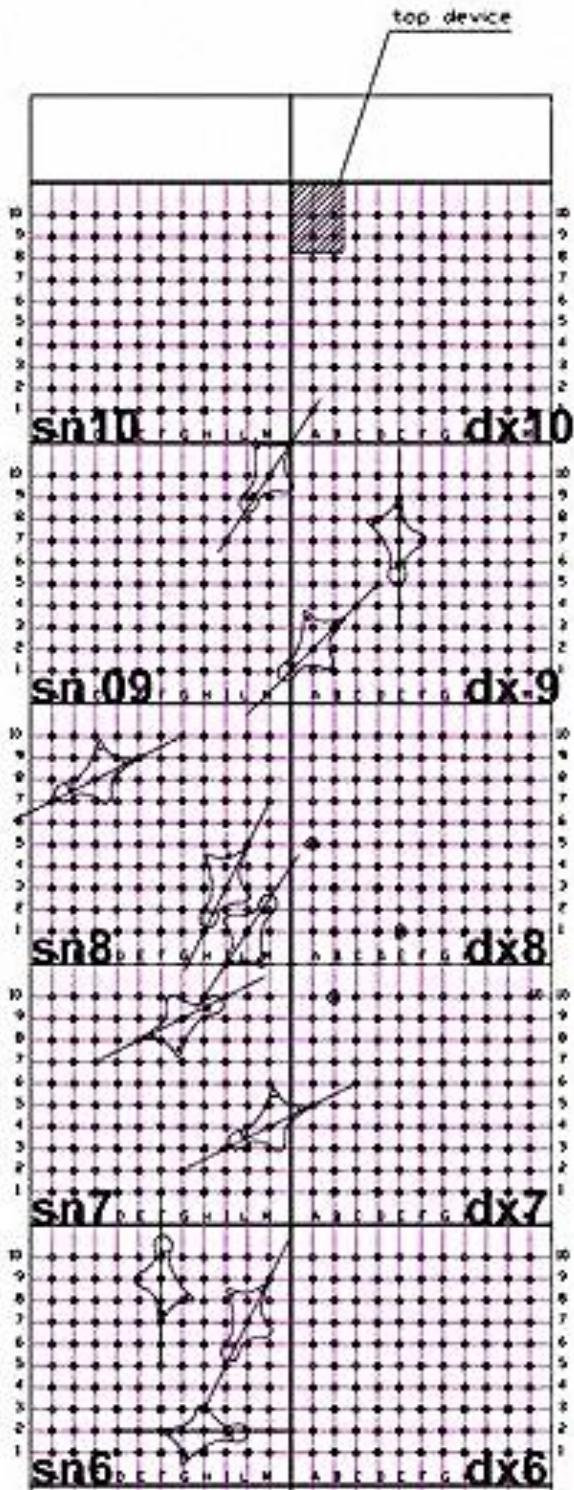
パネルのクライミング面の M10 のホールド取り付け穴の配置



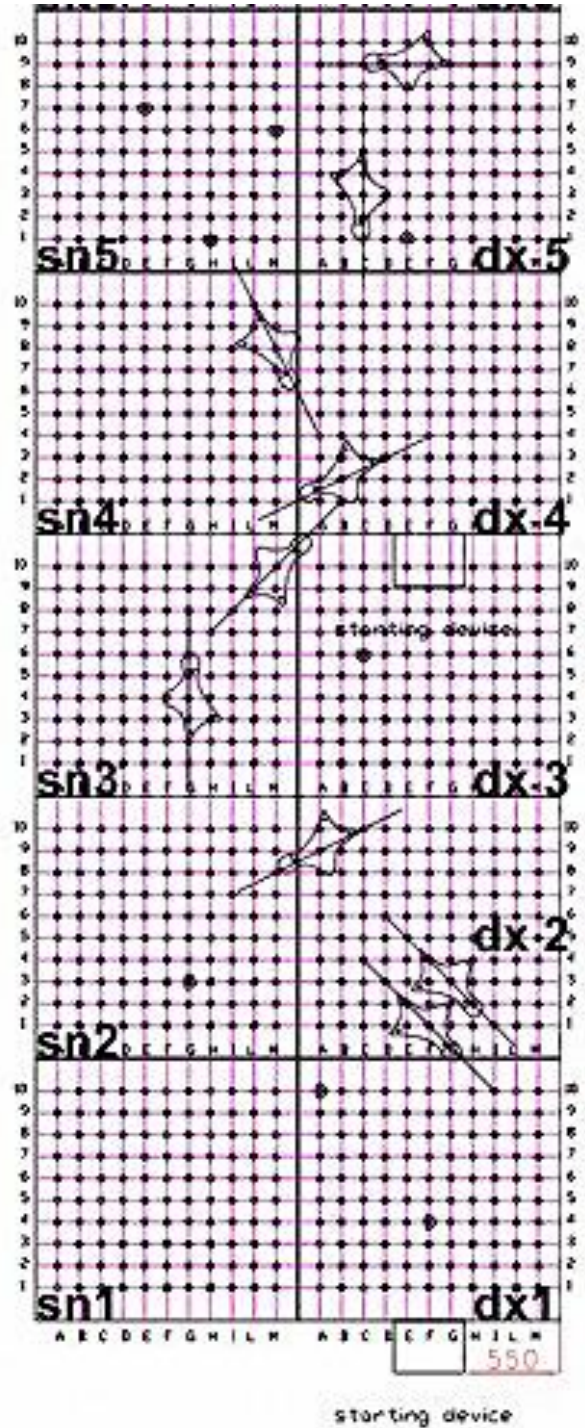
パネルに取付けられるホールドは、前述のようにハンドホールドとフットホールドの 2 種類で、それらの規格もすべて定められていますので、違う種類のホールドで代用するといったことはできません。したがって、スピード競技会を実施する際には予備用のホールドを必ず準備しておく必要があります。ハンドホールドにはすべて 3 次元バーコードが取り付けられており、シリアルナンバーや製造元が記録されています。2012 年までは IFSC 公認スピードホールドメーカーが複数ありましたが、メーカーによって完成度にばらつきが出たようで、2013 年よりライセンスは 1 社のみに付与されています。このライセンスは期間が 2 年で、昨年までは PlanetRock 社が保有していましたが今年から Volx 社に変わりました。他のメーカー経由でも購入できますが、それはライセンス保有メーカーから供給されたものと思われます。

ルート図 (ホールド配置)

上半部



下半部





## 第 2 部 競技種目毎のルール

## 11 複合〈コンバインド〉

## 概説

複合（コンバインド）を IFSC はリード、ボルダリング、スピードに次ぐ新たな第 4 の種目と位置づけています。とは言え、複合がオリンピックのために作り出された種目であることは間違いありません。オリンピックへの採用に際して、複数の種目を入れることができなかつた（＝メダルが男女それぞれ一つずつしか認められなかつた）中で、オリンピックでの実施種目を 3 種目全てを一つにまとめたものとする事によって、特にスピード圏からの不満が出ないように抑えこむための方策だった、と言うことが言われています。

実際、パリではリード+ボルダリングの複合とスピードに分かれて実施ということのようですし、最終的に 3 種目全てにメダルが認められるまでの過渡的段階の種目である、というのは間違っていないのではないのでしょうか。それはさておき、複合がオリンピック種目となったことが、リードとボルダー専門だった日本の選手には一つの刺激となったこともまた確かなようです。野口啓代選手はテレビのインタビューの中で、スピードに取り組むことで他の種目の能力向上につながったという趣旨の発言をしています。スピードをやらざるを得ない状況が、他種目のトレーニングに新しい光を当てた面がある、と言うことで、これは複合という種目の登場によってもたらされたメリットとして評価すべきでしょう。

さて IFSC が、これを一つの新しい種目というのは、2018 年までの世界選手権の「総合順位」とは本質的に違うと言いたいのではないか、と思われます。世界選手権は、世界選手権という大きな枠組みはありますが、本質的には各種目の独立したイベントの集合体という構造です。かつては世界選手権の 3 種目全てに出場した選手の各種目毎の平均順位の合計（2017 まで）または相乗（2018）で、総合順位を出していましたが、この総合はあくまで独立した各種目の成績の総合だが、複合はそれとは違うということです。

11.1 この節は、本ルールの 7 節（リード）、8 節（ボルダー）、9 節（スピード）の規則を併せて参照すること。

11.2 複合競技のための競技会は、以下を含まなければならない：

- A) 各カテゴリーにつき 20 名の定められた定員で行われる予選；および
- B) 各カテゴリーにつき 8 名の定められた定員で行われる決勝

予選および決勝ラウンドは、スピードおよびボルダリング、リードにより構成され、各種目をこの順番で実施し、各ステージは本ルールの 7 節（リード）、8 節（ボルダー）および 9 節（スピード）の関連する条項さらに、この 11 節（複合）に記載されている変更および追加にしたがうものとする。

ここでは大会の基本フォーマットです。各ラウンドの定員と大会を構成する各種目を規定しています。複合と単種目の大きな違いの一つがこの定員にあります。複合では予選から定員が定められています。これはやはりオリンピックの出場定員に基づくものでしょう。

ちなみに世界選手権や大陸別選手権での複合では、他の 3 種目の終了後、3 種目全てに出場した選手について各種目毎の平均順位の相乗で複合順位を出し、それに基づいて複合出場者を決めています。

11.3 予選と決勝は、異なる日に実施されることが望ましい。

11.4 予選は、次のように実施されなければならない：

- A) スピード・ステージの終了予定時刻とそれに続くステージの開始までの間隔は 30 分未満であってはならない ;かつ
- B) ボルダー・ステージの終了予定時刻とそれに続くステージの開始までの間隔は 120 分未満であってはならない.

11.5 決勝は、次のように実施されなければならない :

- A) スピード・ステージの終了予定時刻とそれに続くステージの開始までの間隔は 15 分未満であってはならない ;かつ
- B) ボルダー・ステージの終了予定時刻とそれに続くステージの開始までの間隔は 15 分未満であってはならない.

ここでは複合競技会の日程関係が規定されています。

前項にあるようにラウンド構成は 2 ラウンド。そして予選 1 日、決勝 1 日でそれぞれの各ステージ間のインターバルが規定されています。ここで言う「ステージ」とは、それぞれのラウンド内の各種目、つまりスピード、ボルダー、リードの各種目の競技を指します。

### 競技会の進行（競技順および順位付け以外）

11.6 選手の競技順および順位付けに関する手続きを除き、予選ラウンドの実施および運営方法については以下の通りとする :

- A) スピード・ステージでは、本ルールの 9 節（スピード）の、スピード競技会の予選ラウンドの構成や運営に関する規定に従う。
- B) ボルダー・ステージについては、本ルールの 8 節（ボルダー）の、ボルダー競技会の準決勝ラウンドの構成や運営に関する規定に従う。
- C) リード・ステージについては、本ルールの 7 節（リード）の、リード競技会の準決勝ラウンドの構成や運営に関する規定に従う。

いずれの場合も、11.6 では、上記の各節における“ラウンド”への言及は“ステージ”への言及に置き換えるものとする。

予選の進行についての規定ですが、予選は基本的には各種目の予選または準決勝のルールに準拠するものとされています。単純に複合は 2 ラウンドで、単種目のスピードは 2 ラウンドだからそのまま、ボルダーとリードの単種目は 3 ラウンドなので、準決勝以降をスライドさせて適用とを考えてください。

11.7 選手の競技順および順位付けに関する手続きを除き、決勝ラウンドの実施および運営方法については以下の通りとする :

- A) スピード・ステージについては、以下の修正を加えた、本ルールの 9 節（スピード）の、スピード競技会の決勝ラウンドに関する規定に従う。
  - 1) 9.9(A)は、次のように置き換える：“付録〈Annex〉3 に記載されている対戦表を用いて実施し、付録でレースの勝者と敗者が示されている通り、1/4 ファイナルおよび 1/2 ファイナル、ファイナルの各レースに進出するものとする”；
  - 2) 9.9(B)(3)は、次のように置き換える：“あらゆるレースで両方の選手が同一の有効タイムあるいは成績無し〈No Result〉を記録した場合、当該レースは再競技を行う。再競技の後、当該選手が同着の場合、当該同着は各選手の予選ラウンド終了時点の複合順位によって分けるものとする”

る”；

3) 9.9(C)および9.9(D), 9.9(E)は適用しない。

ボルダールの決勝ですが、トーナメント（勝ち抜き）を基本とする点は通常のスピード競技と変わりません。決勝進出者は現在では8名ですから、単種目のスピードの参加選手が8名以上16名未満の場合と同じです。

違うのは、単種目のスピードではそれぞれのステージでの敗者間の順位は、そのステージでの時間記録を比較して決めています。複合では各対戦の敗者同士による対戦をおこなって5位以下の順位を決めるという点です（下の付録3の表を参照）。

これは早いステージで敗退した選手が以後のステージで競技をおこなわなければ、次のボルダリングまで休むことができるため、決勝で勝ち進んだ選手ほど不利になるからで、2019年に決勝定員が6名から8名に変更になった時に同時に変わった部分です。

(2) は同着が出た場合の処理で、単種目のスピードではまず予選順位を参照しますが、複合ではまず再競技です。そして再競技でも同着の場合に、予選の複合順位を参照します。

### 付録〈Annex〉3 レースとレーンの組合せ〈複合〉

1/4 ステージ	1/2 ステージ	ファイナル・ステージ	
1 A 予選1位 B 予選8位	5 A レース1敗者 B レース2敗者	9 A レース5敗者 B レース6敗者	7位/8位決定
2 A 予選4位 B 予選5位	6 A レース3敗者 B レース4敗者	10 A レース5勝者 B レース6勝者	5位/6位決定
3 A 予選2位 B 予選7位	7 A レース1勝者 B レース2勝者	11 A レース7敗者 B レース8敗者	3位/4位決定
4 A 予選3位 B 予選6位	8 A レース3勝者 B レース4勝者	12 A レース7勝者 B レース8勝者	1位/2位決定

B) ボルダール・ステージについては、以下の修正を加えた、本ルールの8節（ボルダール）の、ボルダール競技会の決勝ラウンドに関する規定に従う。

1) 8.1(B)は、次のように置き換える：“3ボルダールによる1つのコース。なお、ジュリー・プレゼンテーションはこのラウンドに関しては、ボルダール数を減らすことができない”

2) 8.11(A)は適用しない。

C) リード・ステージについては、以下の修正を加えた、本ルールの6節（リード）の、リード競技会の決勝ラウンドに関する規定に従う。

1) 7.13(A)は適用しない、

いずれの場合も、11.7では、上記の各節における“ラウンド”への言及は“ステージ”への言及に置き換えるものとする。

ボルダールでは、単種目との大きな違いはボルダール数が3とされている点です。これには、競技時間の短縮と、選手の負

担減の両方の理由があるのでしょうか。リードでは単種目との違いはありません。

## 競技順およびスターティング・リスト

11.8 予選ラウンドにおけるスピードのレーン A およびボルダー、リードの競技順は、当該競技会のシーディング・リストの逆順とする。すなわち最も高位のシードされた選手が最後にスタートする。シーディングは：

- A) 出場権獲得選手の全員が参加した単一のカレンダーイベントを通じて、各選手が当該競技会の出場権を得た場合、当該選手の複合順位の昇順とする；かつ
- B) 複数のカレンダーイベントで構成された予選システムを通じて、各選手が当該競技会の出場権を得た場合、当該競技会に対して IFSC が公表したものとする。

レーン B については、レーン A と順序は同様とし 50%の人数のところを前後を入れ替える（例：20 名もしくは 21 名のスターティング・リストの場合、ルート A で 11 番目にスタートする選手はルート B で 1 番になる。）

11.9 決勝の各ステージの競技順は、次のように決定しなければならない：

- A) スピード・ステージでは、付録〈Annex〉3 に記載されている順序とする——すなわちレース 1 は予選のスピード・ステージの 1 位と 8 位の選手で実施するものとする。
- B) ボルダー・ステージについては、競技順は予選ラウンドの相当するステージの順位の逆順とする（例：当該ステージで最高順位の選手が最後に競技を行う）。
- C) リード・ステージについては、競技順は予選ラウンドの相当するステージの順位の逆順とする。（例：当該ステージで最高順位の選手が最後に競技を行う）

予選の競技順は「シーディング・リストの逆順」とあります。これは複合独自の概念です。もともと複合はオリンピックを強く意識しています。つまり国際的な選抜大会として実施するもので、ワールドカップなどのように各フェデレーション内での選手選考を通れば出られると言うものではありません。この国際的な選考大会の成績をもとに選手を序列化したものがシーディング・リストになります。その逆順ですから、下位の選手が先、上位の選手が後になります。

単種目の場合は、ボルダーが世界ランキングの順で、他の種目は無作為順ですが、複合では全てシーディング・リストの逆順で統一されています。

## ステージ順位

11.10 それぞれのステージでの順位は以下のように算出されるものとする：

- A) 各スピード・ステージについては、決勝ラウンドでは以下の修正点および追加点を加えた本ルールの 9 節（スピード）の規定に従う：
  - 1) 9.18(B)は、次のように置き換える：“ラウンドを開始した各選手は以下の基準によって順位付けられるものとする：
    - a) レース 1～4 の成績
    - b) レース 5～8 の成績
    - c) レース 9～12 の成績

いずれの場合も、レースでの勝利は敗北よりも上位に、敗北はいかなる IRM よりも上位に順位付ける”；

2) いかなる選手であれ：

- a) ステージ中のいずれかのレースを開始できなかった、あるいは競技を開始するのに適格性を欠くとされた場合、その後続くレースへの参加資格を失う；および/または
- b) ステージを開始できなかった、あるいは開始するのに適格性を欠くとされた場合、当該ステージではランク外とし、その成績は適切な IRM で記録される。

スピードの順位決定法です。先の述べたように決勝では、敗者同士の対戦で順位を決めます。上記(A)(1)(a)~(c)のレース番号は全ページの付録〈Annex〉3の対戦の番号を意味します。

(2) は単種目の場合の処理と同じです。

B) 各ボルダー・ステージについては、以下の修正点および追加点を加えた本ルール の 8 節 (ボルダー) の規定に従う：

- 1) 8.20 は次のように置き換える：“8.19 に定める順位付けの後、2 名以上の選手が同着の場合、同着の選手間の順位は以下のように決定するものとする：
  - a) 最初のアテンプトで完登したボルダー数から始めて、以下 2 回目のアテンプトで完登したボルダー数、と言うように、各選手の最も良い成績を比較する；
  - b) a)の比較で同着が分けられない場合は、最初のアテンプトでゾーンを獲得したボルダー数から始めて、以下 2 回目のアテンプトでゾーンを獲得したボルダー数、と言うように、各選手の最も良い成績を比較する；
  - c) 決勝ラウンドのみ、(a)および(b)の適用後になお同着の選手がある場合は、当該順位は予選ラウンドのボルダー・ステージの順位の比較によって決定する”。
- 2) コースを開始できなかった、あるいは開始するのに適格性を欠くとされたいかなる選手も、当該ステージではランク外とし、その成績は適切な IRM で記録される。

C) 各リード・ステージについては、以下の修正点および追加点を加えた本ルール の 7 節 (リード) の規定に従う：

- 1) 7.24(B)は適用しない；
- 2) 7.24(C)は、次のように置き換える：“7.22 に定める順位付けの後、同着の選手がある場合、当該選手間の順位は以下のように決定する：
  - a) 秒単位のクライミング・タイムの比較によって決定する（より短い時間が上位）；
  - b) 決勝ラウンドの場合、(a)の適用後も同着が残る時は、同着の選手間の順位は予選のリード・ステージのその順位の比較”；
- 3) ステージを開始できなかった、あるいは開始するのに適格性を欠くとされたいかなる選手も、当該ステージではランク外とし、その成績は適切な IRM で記録される。

いずれの場合も、11.10 では、上記の各節における“ラウンド”への言及は“ステージ”への言及に置き換えるものとする。A) 予選については、次のように決定されるものとする。

ボルダーは基本的に単種目の場合と同じと考えて良いのですが、(B)(1)(b)にあるように、単種目では決勝でしか適用されない方法を予選から適用します。リードの場合も同様、単種目では決勝の上位 3 位までの同着でしか適用しない時間記録の参照を、予選からおこないます。これは複合では、各ラウンド内で順位をきっちり付けておく、という考え方だからでしょう。その裏にはオリンピックの金メダルの重みがうかがえます。

なおいずれも決勝ではカウントバックの前に上記の手法を適用して順位をきっちりつける、と言う点が単種目との違いです。その後、なお同着が残る場合に初めて予選成績を参照します。ここで参照する予選成績は予選終了時の複合成績ではなく、予選のその種目の成績です。

## 複合順位

11.11 11.13 の条件の下、複合順位は各ラウンドの終了後に、そのラウンドの 3 ステージ全てでスタートした選手について算出されるものとする。

A) 各選手は、それぞれのステージでそのステージの平均順位と等しい「ランキング・ポイント」が与えられるものとする。ランキング・ポイントは：

- 1) 小数点以下 3 位まで算出する（小数点以下 4 位を四捨五入）；
- 2) 小数点以下 2 位まで表示する、そして

いかなるステージにおいて算出されたランキング・ポイントも、選手が当該ステージ終了後に IRM を得た場合、再計算されることはない。

B) ランキング・ポイント総計は、各選手に与えられたランキング・ポイントを掛け合わせて算出されるものとする。

C) 各選手は、それぞれに算出されたランキング・ポイント総計の昇順で順位付けされ（すなわち、値が小さい方が上位）、同じランキング・ポイント総計を保有する選手が複数いる場合、いずれのラウンドにおいても同着の選手の総合順位は以下のように決定されるものとする：

- 1) これらの選手のそのラウンドにおける個々の成績をつきあわせて比較する；そして
- 2) 1)の適用後、なお同着の選手がある場合、以下を比較する：
  - a) 該当する場合、予選終了時の複合順位；
  - b) 必要に応じて、各選手のシーディング。

11.12 中間順位は、各ステージで以下のように算出することができる：

- A) スピード・ステージの途中もしくは終了後；および/または
- B) スピードおよびボルダー・ステージの途中もしくは終了後

いずれの場合も、これらのステージの成績は複合順位の算出にのみ使用される。

11.13 いかなる選手も

- A) 9.17(A)または 9.18(A)節（スピード）の関連する条項に従って、競技会のいかなるステージのスピード・ステージを開始できなかったあるいは開始するのに適格性を欠くとされた場合、当該選手は DNS と記録され、かつそのラウンドでランク外となる；もしくは
- B) 競技会のいかなるラウンドの途中あるいは終了後に失格もしくは行為の結果による失格となった場合、当該選手は全てのラウンドでランク外となり、かつ他の全選手の順位はそれに応じて修正される（ただし、ランキング・ポイントの計算は行わない）。

ここでは 3 種目の成績の総合のしかたが規定されています。

まず種目毎のランキング・ポイントを出します。これはリード予選のルート毎のポイントと同じ平均順位です。そして各種目のランキング・ポイントを相乗したものがランキング・ポイント総計（Ranking Point Total）で、この昇順が複合順位になります。ちなみに”Ranking Point Total”をそのまま日本語に訳すと、合計もしくは総計になり、どうしても

合算、総和のニュアンスが出てしまいますが、あくまで掛け合わせであり「ランキング・ポイント総合」と訳したいところです。これは原文が total であるのが問題で、一番相応しい表現は"Combined Ranking Point"ではないかと思うのですが。

さてこの複合順位で同着が出た場合の処理です。(1)(C)の「これらの選手のそのラウンドにおける個々の成績をつきあわせて比較」とは次のようなことです。

	スピード	ボルダー	リード	総合
選手 A	2	4	3	24
選手 B	1	6	4	24

この場合、選手 A と選手 B の各種目のポイントと比較すると、選手 A はボルダー、リードの 2 種目で選手 B より上位となっています。この場合は選手 A が選手 B より上位となります。

この比較でなお同着の場合はまず、予選終了時の複合順位を参照し、それでもだめならシーディング・リストで上位の選手を上位とします。

なお 11.13(A)の表現が、他種目とは異なっています。他の種目では、「(レースまたは競技)を開始できなかった、あるいは競技を開始するのに適格性を欠くとされたあらゆる選手は、当該ラウンドではランク外とし、その成績は欠場 (Did Not Start / DNS) もしくはその他の適切な IRM で記録される。」となっていて、競技を開始できなかった場合に DNS と言うのは同じですが、競技開始に適格性を欠くとされた場合 (以前のレッドカード) には状況に応じた IRM となるとされています。ところが複合だけはいずれの場合も DNS となっているのです。この相違が意図的なものか記述の誤りかは不明ですが、次の(B)は DSQ 及び DQB の場合の処理なので、記述の誤りのように思われます。

その(B)の規定ですが、DSQ、DQB の場合には、その選手の全てのラウンド、全てのステージの成績はランク外となります。この時、他の選手の順位は繰り上がりますが、複合順位計算のためのランキング・ポイントはもとのまま変更しません。

## 最終順位

この部分は、常識的に考えて当然の内容です。

11.14 最終順位は、以下の基準で決定される：

- A) 決勝ラウンドの複合順位を保有する選手は、その順序；
- B) 予選ラウンドの複合順位のみを保有する選手は、その順序。

## テクニカル・インシデントおよび抗議

9.15 各ラウンドの各ステージに関連するテクニカル・インシデントおよび抗議は、7 節 (リード) および 8 節 (ボルダー)、9 節 (スピード) の規定に従い処理する。例えば、予選ラウンドのボルダー・ステージに関連する条項は 8.22 から 8.27 の予選ラウンドに関する部分である。なお：：

- A) 一度でもあらゆるステージの成績が公式 (Official) となった、かつ該当する場合、あらゆる抗議に対する決定が下された場合、当該ステージの成績に対してさらなる抗議を行うことはできない；
- B) 各ラウンドの終了の際に、そのラウンドの複合順位およびランキング・ポイントの計算が当該ラウンドの公式成績として公表される。複合順位およびランキング・ポイントの計算に対するいかなる抗議も、文書によって、かつ：

- 1) 予選ラウンドでは、公式成績の発表後 5 分以内に行わねばならない；もしくは
- 2) 決勝ラウンドでは、公式成績の発表時に行わねばならない。

テクニカル・インシデントの処理は、単種目のルールにしたがっておこなわれます。

抗議についても基本的な考え方は、単種目の場合と同じと考えてください。